令和7年旭市議会第2回定例会会議録

議事日程（第6号）

令和7年6月25日（水曜日）午前10時開議

- 第 1 常任委員長報告
 - 第 2 質疑、討論、採決
 - 第 3 常任委員長請願報告
 - 第 4 質疑、討論、採決
 - 第 5 事務報告
 - 第 6 閉 会
-

本日の会議に付した事件

- 日程第 1 常任委員長報告
 - 日程第 2 質疑、討論、採決
 - 日程第 3 常任委員長請願報告
 - 日程第 4 質疑、討論、採決
 - 追加日程第1 発議案上程
 - 追加日程第2 提案理由の説明
 - 追加日程第3 質疑、討論、採決
 - 日程第 5 事務報告
 - 日程第 6 閉 会
-

出席議員（20名）

1 番	常世田 正 樹	2 番	伊 藤 春 美
3 番	菅 谷 道 晴	4 番	戸 村 ひとみ
5 番	伊 場 哲 也	6 番	崎 山 華 英
7 番	永 井 孝 佳	8 番	井 田 孝
9 番	島 田 恒	10 番	片 桐 文 夫
11 番	遠 藤 保 明	12 番	林 晴 道

13番 宮内 保
15番 宮澤 芳雄
17番 向後 悦世
19番 木内 欽市

14番 飯嶋 正利
16番 伊藤 房代
18番 景山 岩三郎
20番 松木 源太郎

欠席議員（なし）

説明のため出席した者

市長	米本 弥一郎	副市長	柴 栄 男
教育長	向後 依 明	秘書広報課長	寺 嶋 和 志
行政改革推進課長	椎 名 実	総務課長	向後 稔
企画政策課長	榎澤 茂	財政課長	池田 勝 紀
税務課長	多田 仁	市民生活課長	齋藤 邦 博
環境課長	大八木 利 武	保険年金課長	大網 久 子
健康づくり長	黒柳 雅 弘	社会福祉課長	向後 利 胤
子育て支援長	八馬 祥 子	こども家庭課長	石橋 康 司
高齢者福祉長	椎 名 隆	商工観光課長	金杉 高 春
農水産課長	伊藤 弘 行	建設課長	齊藤 孝 一
都市整備課長	飯島 和 則	会計管理者	戸葉 正 和
消防長	常世田 昌 也	上下水道課長	向後 哲 浩
教育総務課長	飯島 正 寛	生涯学習課長	江波戸 政 和
スポーツ振興課長	林 甲 明	監査委員局長	杉本 芳 正
農業委員会事務局長	金谷 健 二		

事務局職員出席者

事務局長	穴澤 昭 和	事務局次長	菅 晃
------	--------	-------	-----

開議 午前10時 0分

○議長（飯嶋正利） おはようございます。

ここで、会議を開会する前にあらかじめご了承をお願いいたします。

報道関係者の取材のため、この後、本議場内の写真撮影を行います。

ただいまの出席議員は20名、議会は成立いたしました。

これより本日の会議を開きます。

○議長（飯嶋正利） 議案第1号から議案第7号までと議案第9号から議案第11号までの10議案及び請願第2号から請願第5号までの請願4件を議題とします。

各常任委員会に付託いたしました議案等の審査結果は、配付のとおりであります。

配付漏れはありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（飯嶋正利） 配付漏れないものと認めます。

◎日程第1 常任委員長報告

○議長（飯嶋正利） 日程第1、常任委員長報告。

これより各常任委員会に付託いたしました議案審査の経過と結果について、各常任委員長の報告を求めます。

初めに、建設経済常任委員長、永井孝佳議員、ご登壇願います。

（建設経済常任委員長 永井孝佳 登壇）

○建設経済常任委員長（永井孝佳） 建設経済常任委員会委員長の報告を申し上げます。

去る6月18日午前10時より、議会委員会室において、議案説明のため、執行部の出席を求め、本委員会を開催いたしましたので、審査の経過及び結果についてご報告申し上げます。

去る6月11日の本会議において、本委員会に付託されました議案は、議案第1号、令和7

年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち所管事項、議案第4号、旭市が設置する専用水道の水道技術管理者の資格を定める条例及び旭市水道の布設工事監督者及び水道技術管理者に関する条例の一部を改正する条例の制定についての2議案であります。

まず、議案の審査結果から申し上げます。

当委員会に付託されました2議案については、別紙報告書のとおり、全員賛成で、原案のとおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第1号の主な質疑について要約して申し上げます。

初めに、令和8年度までの予算繰越しとのことだが、パッカー車は令和8年度中に納車できるとの質疑では、納車の見込みは半年から1年程度であることから、令和8年度中の納車を見込んでいるとの答弁がありました。

また、納車された場合、現車両の処分はどうなるのかとの質疑では、下取りで売却できればそのようにしたいとの答弁がありました。

以上のとおりでありましたので、報告いたします。

令和7年6月25日、建設経済常任委員長、永井孝佳。

○議長（飯嶋正利） 建設経済常任委員長の報告は終わりました。

続いて、文教福祉常任委員長、島田恒議員、ご登壇願います。

（文教福祉常任委員長 島田 恒 登壇）

○文教福祉常任委員長（島田 恒） おはようございます。

文教福祉常任委員会委員長の報告を申し上げます。

去る6月11日の本会議において、本委員会に付託されました、議案第1号、令和7年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち所管事項の1議案について、審査の結果を申し上げます。

去る6月19日午前10時より、議会委員会室において、議案説明のため執行部の出席を求め、本委員会を開催いたしました。

審査の結果、別紙報告書のとおり、全員賛成で、原案のとおり可決すべきものと決しました。

なお、質疑はありませんでした。

以上のとおり、報告いたします。

令和7年6月25日、文教福祉常任委員長、島田恒。

○議長（飯嶋正利） 文教福祉常任委員長の報告は終わりました。

続いて、総務常任委員長、景山岩三郎議員、ご登壇願います。

(総務常任委員長 景山岩三郎 登壇)

○総務常任委員長(景山岩三郎) おはようございます。最終日お疲れさまでございます。

それでは、総務常任委員会委員長報告を申し上げます。

去る6月11日の本会議において、本委員会に付託されました、議案第1号、令和7年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち所管事項、議案第2号、旭市議会議員及び旭市長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第3号、旭市非常勤の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第5号、財産の取得について、議案第6号、財産の取得について、議案第7号、財産の取得について、議案第9号、専決処分の承認について、議案第10号、専決処分の承認について、議案第11号、専決処分の承認についての9議案について、審査経過並びに結果を申し上げます。

去る6月20日午前10時より、議会委員会室において、議案説明のため執行部の出席を求め、本委員会を開催いたしました。

それでは、審査内容について、質疑とその答弁の内容を申し上げます。

初めに、議案第1号の主な質疑について、申し上げます。

定額減税不足額給付金給付事業の給付のスケジュールはとの質疑では、7月下旬に対象者へ通知を送付する予定。その中で、以前の給付等で口座登録がある方へは、登録されている口座への振り込み確認書を送付。口座登録のない方へは、登録手続後、振り込み予定日のお知らせを送付する。振り込みの開始は8月下旬を予定しており、12月1日の完了を目指したいとの答弁がありました。

次に、議案第2号の主な質疑について、申し上げます。

選挙のビラとポスターの改定単価は何を基準としているのかとの質疑では、3年に1度の参議院議員選挙の年に見直されている国会議員の選挙等の執行経費の基準に関する法律、公職選挙法施行令に定める基準に準じて、市も基準額を見直しているとの答弁がありました。

以上、主な質疑及び答弁内容について申し上げましたが、審査の結果、別紙報告書のとおり、9議案とも全員賛成で、それぞれ原案のとおり可決、承認すべきものと決しました。

以上のとおり報告をいたします。

令和7年6月25日、総務常任委員会委員長、景山岩三郎。

○議長(飯嶋正利) 総務常任委員長の報告は終わりました。

以上で、付託議案に対する各委員長の報告は終わりました。

◎日程第2 質疑、討論、採決

○議長（飯嶋正利） 日程第2、質疑、討論、採決。

これより、質疑、討論、採決を行います。

ただいまの各委員長の報告に対し、一括して質疑に入ります。質疑はありませんか。

（発言する人なし）

○議長（飯嶋正利） 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。

議案第1号について討論の通告はありません。

討論なしと認めます。

続いて、議案第2号について討論の通告がありますので、発言を許可いたします。

永井孝佳議員、ご登壇願います。

（7番 永井孝佳 登壇）

○7番（永井孝佳） 議案第2号、旭市議会議員及び旭市長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例の制定について、反対の立場から討論いたします。

この議案を簡単に言うと、選挙ポスターとチラシの公費負担の上限を上げる条例改正です。選挙で公費負担があるのは、全ての候補者が公平に選挙活動を行えるようにするためです。資金力の差によって選挙の結果が左右されるのを防ぎ、民主主義の根幹である公正な選挙を守るために設けられています。しかし、この公費負担の上限が実勢価格と乖離した金額なのです。

改正前の金額でもポスター150枚を作るのに公費負担の上限は39万円です。ちなみに私がポスター200枚を4年前に作った金額は2万800円です。素材もほかと同じユポタックです。写真の撮影料やポスターのデザイン料などもありますので、一概に比べることはできませんが、39万円より上げる必要があるのでしょうか。例えば写真撮影に10万円、デザインに15万円、印刷に5万円かかったとしても、30万円で収まります。これ以上のこだわりは、選挙の公平公正とは全く関係がありませんので、自腹でやっていただければと思います。

そもそも4年前の旭市議会議員選挙で、ポスターの公費負担の上限を超えた候補者は一人

もいませんでした。つまり、足りているんです。何人かでも公費負担で収まらず、自己負担をしているなら改正する理由も分かりますが、実際は逆です。公費負担が業者の食い物にされています。

実例を二つ挙げます。ある候補者が——この地域ではないです、遠くです。ある候補者が二つの選挙に立候補しました。どちらの選挙とも同じ業者にポスターを発注しました。片方は法定得票数を獲得したので公費負担、片方は法定得票数に届きませんでした。公費負担を使える選挙のポスター代金は1枚当たり2,801円、公費負担を利用できなかった選挙、つまり自腹で払った場合は1枚当たり130円と21分の1の金額です。選挙の規模で多少は違うとは思いますが、ここまでの差が出るのはこの制度に不備があるとしか言えません。

もう一つの事例は、4年前の旭市の選挙です。立候補予定者の説明会が終わった後、玄関に業者が並んでいました。そこで封筒を渡されたんですけども、内容はポスター代は公費負担の上限です、自己負担は一切ありませんと書かれていました。はあ、と思いました。まだ詳細も話していない段階で、公費負担の上限とする不誠実さに怒りを感じました。どうせ税金だから高くてもよいでしょうと言われているような感じがしました。

高過ぎると思いませんか。自腹でもその業者に発注しますか。税金だからといってコスト感覚が麻痺していませんか。ポスター150枚で40万円払いますか。このコスト意識が税金を使っている人たちに欠如していると感じます。皆さんの血税です。しっかりと監視しなくてはなりません。まずは自分たちの関わりがある部分から締めていく必要があると私は感じています。

この議案が通らなかつたら、誰かが困りますか。市民も、立候補する人も誰一人困りません。ポスター150枚で39万円なら、業者は十分過ぎるほどもうかっています。上げる理由が何一つありません。この議案自体は小さな金額です。しかし、行政も議員もこんな感覚で税金を使っていたら、市民は納得しません。

公務員と民間業者はどちらも一生懸命働いています。一番違う点はコスト意識です。民間は、お金持ちの社長でもけちな部分が多いです。費用対効果を必ず考えます。我々も含めて、公務員は組織としてルーズな場合が多いです。緊縮財政にしろと言っているわけではありません。自分の財布から出すときと同じ感覚で税金を使っていこうと願っているだけです。

今回のケースでは、上げる理由が1ミリもないので反対いたします。

以上です。

○議長（飯嶋正利） 以上で議案第2号の討論を終わります。

続いて、議案第3号から議案第7号までと議案第9号から議案第11号までの討論の通告はありません。

討論なしと認めます。

これより議案第1号から議案第7号までと議案第9号から議案第11号までの10議案について採決いたします。

採決は電子表決システムにより行います。

議案第1号、令和7年度旭市一般会計補正予算の議決について、原案のとおり決するに賛成または反対のボタンを押してください。

（表決ボタンにより表決）

○議長（飯嶋正利） 押し忘れなしと認め、確定いたします。

全員賛成。

よって、議案第1号は原案のとおり可決されました。

議案第2号、旭市議会議員及び旭市長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例の制定について、原案のとおり決するに賛成または反対のボタンを押してください。

（表決ボタンにより表決）

○議長（飯嶋正利） 押し忘れなしと認め、確定いたします。

賛成多数。

よって、議案第2号は原案のとおり可決されました。

議案第3号、旭市非常勤の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について、原案のとおり決するに賛成または反対のボタンを押してください。

（表決ボタンにより表決）

○議長（飯嶋正利） 押し忘れなしと認め……暫時休憩。

休憩 午前10時20分

再開 午前10時20分

○議長（飯嶋正利） 会議を再開いたします。

議案第3号について、原案のとおり決するに賛成または反対のボタンを押してください。

(表決ボタンにより表決)

○議長(飯嶋正利) 押し忘れなしと認め、確定いたします。

全員賛成。

よって、議案第3号は原案のとおり可決されました。

議案第4号、旭市が設置する専用水道の水道技術管理者の資格を定める条例及び旭市水道の布設工事監督者及び水道技術管理者に関する条例の一部を改正する条例の制定について、原案のとおり決するに賛成または反対のボタンを押してください。

(表決ボタンにより表決)

○議長(飯嶋正利) 押し忘れなしと認め、確定いたします。

全員賛成。

よって、議案第4号は原案のとおり可決されました。

議案第5号、財産の取得について、原案のとおり決するに賛成または反対のボタンを押してください。

(表決ボタンにより表決)

○議長(飯嶋正利) 押し忘れなしと認め、確定いたします。

全員賛成。

よって、議案第5号は原案のとおり可決されました。

議案第6号、財産の取得について、原案のとおり決するに賛成または反対のボタンを押してください。

(表決ボタンにより表決)

○議長(飯嶋正利) 押し忘れなしと認め、確定いたします。

全員賛成。

よって、議案第6号は原案のとおり可決されました。

議案第7号、財産の取得について、原案のとおり決するに賛成または反対のボタンを押してください。

(表決ボタンにより表決)

○議長(飯嶋正利) 押し忘れなしと認め、確定いたします。

全員賛成。

よって、議案第7号は原案のとおり可決されました。

議案第9号、専決処分の承認について、原案のとおり承認することに賛成または反対のボタンを押してください。

(表決ボタンにより表決)

○議長(飯嶋正利) 押し忘れなしと認め、確定いたします。

全員賛成。

よって、議案第9号は原案のとおり承認されました。

議案第10号、専決処分の承認について、原案のとおり承認することに賛成または反対のボタンを押してください。

(表決ボタンにより表決)

○議長(飯嶋正利) 押し忘れなしと認め、確定いたします。

全員賛成。

よって、議案第10号は原案のとおり承認されました。

議案第11号、専決処分の承認について、原案のとおり承認することに賛成または反対のボタンを押してください。

(表決ボタンにより表決)

○議長(飯嶋正利) 押し忘れなしと認め、確定いたします。

全員賛成。

よって、議案第11号は原案のとおり承認されました。

◎日程第3 常任委員長請願報告

○議長(飯嶋正利) 日程第3、常任委員長請願報告。

文教福祉常任委員会に付託いたしました請願審査の経過と結果について、委員長の報告を求めます。

文教福祉常任委員長、島田恒議員、ご登壇願います。

(文教福祉常任委員長 島田 恒 登壇)

○文教福祉常任委員長(島田 恒) 文教福祉常任委員会委員長の請願報告を申し上げます。

去る6月11日の本会議において、本委員会に付託されました、請願第2号、「義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書」採択に関する請願。請願第3号、「国における2026年

度教育予算拡充に関する意見書」採択に関する請願。請願第5号、訪問介護基本報酬の見直し・改善を求める請願の、請願3件について審査経過並びに結果を申し上げます。

去る6月19日、付託議案の審査終了後、紹介議員より説明を受け、審査を行いました。

審査の中で、請願第2号、請願第3号については、特に意見はありませんでした。

請願第5号については、都市部では訪問介護を効率的に行うことができるが、地方では非効率的な面があり、報酬にも格差があるとの意見があったほか、都市部と地方を一律に見直してよいのか、事業者の規模や都市部、地方を分けて見直すのであれば、賛成との意見等がありました。

別紙報告書のとおり、請願第2号と第5号は賛成多数で、請願第3号は全員賛成で、それぞれ採択と決しました。

以上のとおり報告いたします。

令和7年6月25日、文教福祉常任委員長、島田恒。

○議長（飯嶋正利） 文教福祉常任委員長の報告は終わりました。

◎日程第4 質疑、討論、採決

○議長（飯嶋正利） 日程第4、質疑、討論、採決。

初めに、請願第2号、請願第3号、請願第5号について質疑、討論、採決を行います。

それでは、質疑に入ります。文教福祉常任委員長の報告に対し質疑はありませんか。

（発言する人なし）

○議長（飯嶋正利） 質疑なしと認めます。

これより討論に入ります。

討論の通告はありません。

討論なしと認めます。

これより請願第2号、請願第3号、請願第5号について採決いたします。

請願第2号、「義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書」採択に関する請願について、採択と決するに賛成または反対のボタンを押してください。

（表決ボタンにより表決）

○議長（飯嶋正利） 押し忘れなしと認め、確定いたします。

全員賛成。

よって、請願第2号は採択といたします。

請願第3号、「国における2026年度教育予算拡充に関する意見書」採択に関する請願について、採択するに賛成または反対のボタンを押してください。

(表決ボタンにより表決)

○議長(飯嶋正利) 押し忘れなしと認め、確定いたします。

全員賛成。

よって、請願第3号は採択といたします。

請願第5号、訪問介護基本報酬の見直し・改善を求める請願について、採択するに賛成または反対のボタンを押してください。

(表決ボタンにより表決)

○議長(飯嶋正利) 賛成少数。

よって、請願第5号は不採択といたします。

続いて、請願第4号について質疑、討論、採決を行います。

それでは、質疑に入ります。質疑はありますか。

常世田正樹議員。

○1番(常世田正樹) それでは、何点か質疑させていただきます。

1点目です。「土は津波と共に土石流となり」とありますが、まず土石流の定義についてお聞きしたいと思います。また、逆効果という記述がありますが、科学的な根拠について教えてください。

2点目です。「ごみや不法投棄の温床」となっておりますが、どれほどの量が不法投棄されているのでしょうか。また、市のほうには通報などございましたのでしょうか。試験林ばかり不法投棄されているのか、また海岸全体に不法投棄が多いのか、教えてください。

3点目、「貴重な景観が損なわれる」とありますが、海が見えると怖い、また命を守ることが最優先という考え方の方もいると思うのですが、それらについて比較検証などあったのか教えてください。

○議長(飯嶋正利) 常世田正樹議員の質疑に対し、答弁を求めます。

戸村ひとみ議員。

○4番(戸村ひとみ) それでは、お答えいたします。

これ、あくまでも請願を提出されました奥山さんの、私は紹介議員ということで、奥山さ

んと話をしている中で私が同じような意見を持ったというところでの答えといたします。
本日、奥山さんは仕事の関係上、来ることができませんので。

(「土石流の定義」の声あり)

○4番(戸村ひとみ) 減災林が土石流となりということで、この根拠ですか。土石流の定義。土石流の定義というのは、恐らく科学的な、専門家ではございませんので、気仙沼の例を挙げられていると思われます。気仙沼のことを私たちちょっと話し合ったんですが、この請願のときに。請願を出されるときに話し合ったんですけれども、皆様にもちょっと考えていただきたいので。

気仙沼の奇跡の一本松。これ震災遺構として、今は枯れてしましまして、レプリカを作って、それを津波の遺構として残してあるんですが、この遺構を見に観光客の方が、観光客というか津波のことを追悼しに行かれる方、その方のコメントがネットで調べていただければ、この奇跡の一本松というところを探していただくと出てくるのですが、「かつて高田松原にあった約7万本の松林のなかで、東日本大震災の津波に耐えて奇跡的に残った一本の松があります。その松は大津波に耐えて残った姿から「奇跡の一本松」と呼ばれ、復興への「希望の象徴」となりました。樹齢は173年。高さは27.5mもある奇跡の一本松は、残念ながら震災の翌年の2012年5月に枯死が確認されましたが、復興のシンボルとして後世に受け継ぐために保存整備を行い、現在は「モニュメント」として昔と同じ場所に立っています。」ここからコメントですね、陸前高田の道の駅に車を止め、整備中の公園予定地を見ながら徒歩10分強、震災前は目の前に大海原が見られたと思うが今は防潮堤で全く海は見えない。近くにより見上げると、突然心が悲しくなった。一本松は図らずもユースホステルの建物に守られたかのよう。公園が整備されても、そのときのことが忘れられないようにしたいものだ。

もう一つのコメントです。今あるのはレプリカだそうです。一本松の向こうにはユースホステルがあって、そのおかげで波の勢いが抑えられて一本松が残ったのではないかとされています。1本以外の全ての松がなくなってしまったそうで、今見える景色と震災前とは全く違ってしまっているそうですというコメントで、このコメントと一本松の、私は一本松を視察で見てまいりました。

奥山さんと話の中で、この7万本にも及ぶ松が、松だけが流されたのではないです。土と一緒に土石流となって流されたんですねという話をしました。なので、奥山さんはこのように土石流として書かれているんだと思われます。

あと、続きまして……。

○議長（飯嶋正利） 不法投棄です。

○4番（戸村ひとみ） ごみですね、ごみの不法投棄。海岸全体にかどうか。私は、県の海匠土木のほうに、違う場所にも物すごい粗大ごみが捨てられているのを、結構海匠土木のほうに通報といいたいまいしょうかお伝えして、早く撤去してくださいというふうにお願いを今までもしてきました。

ご存じのように、ニューヨークの割れ窓ガラス理論。これは、一つごみがあるとそこに捨てていいんだと思って人がどんどん捨てていくんですよ。罪悪感なしにごみを捨てていきます。この試験林も今そういう状態です、といいたいまいしょうか、10年たって、この請願が出てきたからかどうかわかりませんが、つい先日市のほうで減災林の、試験林の掃除をしました。私は、あそこに住んでいるのでよく分かるんですが、恐らく……

（発言する人あり）

○議長（飯嶋正利） 質疑に対し簡潔にお願いします。

○4番（戸村ひとみ） 簡潔に。ですから、そこは相当なごみの量です。それを最近、10年たって市が掃除をしました。

あと貴重な景観ということですが、今、あの堤防を歩いていて見える夕日に富士山が上がってくる景色、あれは夕陽百景に選ばれております、ご存じだと思いますが。海が見えると不安という方もいらっしゃるというふうなことを今言われましたが、恐らくそういう方は堤防の上も歩かれないでしょうし、あの辺に住んではいらっしゃると思われま

す。

答弁漏れがありましたら教えてください。

○議長（飯嶋正利） 常世田正樹議員。

○1番（常世田正樹） すみません、さらに質疑させていただいて大丈夫ですか。

土石流なんですけれども、すみません、私、防災士を取ったときに山や河原の石や土砂が大雨や長雨などによって一気に下流に押し流される現象ということで、山津波とも呼ばれているんですけれども、ここで津波とともに土石流という表現は科学的にも言葉の使い方でも間違っていると思うんですけれども見解を教えてください。

あと「不法投棄の温床」となっているんですけれども、実際ほかの海岸部分と試験林、この文章を読んだ限りでは試験植林の部分がとても悪者のように私は感じるんですが、もう一度その試験植林と砂浜の部分について差があるのかどうか教えてください。

景観を損ねる、また命を守るということにつきまして、2013年から2016年に旭市野中

のほうで植林事業をやりました。2億3,000万円、総事業費です。3万4,000本以上のクロマツ等を植えました。その際の治山事業に関するアンケートの中で「海岸防災林造成工事は必要だと思いますか？」という質問に対して87%が必要と回答しております。また「津波等海岸における災害について、不安はありますか？」という質問に対しても86%が不安と回答しております。震災後になりますね、2013年から始まった工事です。

この数字に関して景観を損ねる、もう一度その景観を損ねるほうが大切なのかどうか、見解をお聞かせ願えればと思います。

○議長（飯嶋正利） 常世田正樹議員の再質疑に対し答弁を求めます。

戸村ひとみ議員。

○4番（戸村ひとみ） 土石流という言葉のようですが、これ、あくまでも先ほども言いましたように奥山さんのほうがそのように土石流という、ご自身で、彼は科学者でも何でもございませんので、土石流というそういうイメージを持たれたゆえのこの文章だと思います。私は、奥山さんの文章に対して、彼がそういうふうなイメージを持たれたんだなということでその一本松の話をしたまでです。

あと2013年から2016年、このときに野中のほうに3万4,000本植えられたということで、それは私も知っています。私、一般質問でも申し上げましたが、2013年、2011年の直後、これは東北のほうでもアンケートを取りましたら、堤防とかそういう津波を防ぐもの、そういうものが大切って。何が自分たちの今生活に大切かというアンケートを取りましたら、そういう堤防とかそういう津波を防ぐものというのが大事というのが、かなり上のほうを占めておりました。ただ、ちょっとごめんなさい、今そのデータを今日は持ってきていないので。

それから10年たって、2021年に同じアンケートを取ったときには、仕事、働く場所が必要、経済が大事というのがパーセンテージ上のほうにまいりました。ですから、野中の3万4,000本、これが2013年から植えられました。その前に取られたアンケートだと思われます。要するに震災直後に取られたアンケート、それは東北と同じような結果になっているんだと思われます。

先ほども言いましたように、夕陽百景にも選ばれているその景観を選んで移り住んで、そこで経済活動して一生懸命復興のために頑張っている人たちがいます。そういった意味で、景観が命より大事かと言われるとそれはもちろん命のほうが大事です。

ただ、人は働いて、そして食べていかななくてははいけません。そういった意味では、大きな範囲で命と言われると両方とても大事なことだと私は思います。ですから、震災直後のアン

ケートと10年たってからの人の気持ち、それを比較しても何もならないと思います。

○議長（飯嶋正利） 常世田正樹議員に申し上げます。市民からの請願ですので、発言には気をつけてください。

常世田正樹議員。

○1番（常世田正樹） すみません。では最後に1点、その請願者である奥山さんと紹介議員である戸村議員は話し合っただけで文章を作成したようなニュアンスだったと思うんですけども……。

（「話し合っていない」の声あり）

○1番（常世田正樹） 話し合っていないですか。相談したと先ほどおっしゃっていませんでしたっけ。話し合ったという言葉は私聞いたような気がするんですけども、あくまで奥山さんが土石流という表現をしたとおっしゃいますけれども、科学的にはやはり津波が引き起こすものは土石流ではないので、訂正をしたほうがいいかなと私は思いますがどうでしょうか。

○議長（飯嶋正利） 常世田正樹議員の再々質疑に対し答弁を求めます。

戸村ひとみ議員。

○4番（戸村ひとみ） お答えします。

市民から切実な願いで請願を出されたもの、この請願の文章の中に科学的な根拠を逐一羅列しなくてはいけないということは、私は決してないと思います。

それから、私はこの文章に関して話し合いはしておりません。私は、土石流として来るよねと言われて、そういえば土石流というイメージがあるんだなというのを思ったんです。奥山さんとは、本当に何回も私は彼の切実な願いを聞いています。話し合いの中で聞いています。ただ、最終的にこの請願を出されるときに、私のところにこの文章を持って見えましたので、この文章の中の文言、一字一句に対して私は全くここに科学的根拠が必要ですよとか、そういうことは言っておりません。

○議長（飯嶋正利） 常世田正樹議員の質疑を終わります。

ほかに質疑はありませんか。

林晴道議員。

○12番（林 晴道） それでは、請願に対しまして質疑を行います。

旭市飯岡地区「海岸減災林整備事業」の中止を求める請願に関して、疑問な点が多々ございますので、質疑をいたします。

先週の総務常任委員会の終了後、10年前に僕自身が試験植樹をさせてもらった海岸減災林の現地視察を行いまして、そのときに担当課より説明をもらいました。調査研究をいたしましたが、そこでまず僕は海上地域在住でありまして、こちらの請願者にある飯岡地区「海岸減災林整備事業」の中止を求める会、これを初めて知りました。

でありますので、当団体の組織から確認をいたしますが、それでは構成人数と年齢層、これを伺った上で、当会員の中で東日本大震災の前から飯岡地域に居住している方々の人数、それとそのうち津波の被害に遭われた方はどの程度いらっしゃるのか、大まかで結構です、じっこんでいろいろ親しくお話しされているようでありますので、その点に関して分かる範囲でお答えいただきたいと思えます。

○議長（飯嶋正利） 林晴道議員の質疑に対し答弁を求めます。

戸村ひとみ議員。

○4番（戸村ひとみ） 紹介議員として、分かる限りお答えいたします。

構成メンバー、それと人数、中止を求める会ですね。これの構成メンバーと人数ですが、この会は奥山さんが急遽つくられました、全くの任意団体でございます。ですから、どこにも届けられておりません。

人数ですが、この後、私、賛成討論の中で奥山さんの書かれている文章を読み上げようと思っていたんですが、奥山さんはご商売をやられていまして……

（「すみません、奥山さんのこと聞いてないです。構成人数と年齢層」の声あり）

○4番（戸村ひとみ） いや、違うんですよ。ご商売をやられていて、いろんな方がそこにご商売のところに行かれます。ですから、その方々にお願いされていますので、私は分かりません、メンバーがどのような方か。ただ、少なくともあの地域でご商売をやられている方、そしてあの地域に住んでいらっしゃる方の結構な人数の方がこの会に賛同していらっしゃいます。その方々全員が会員になっていらっしゃるかどうかというのは分かりませんが、相当数、今署名運動がかなりの広範囲といいましようか、それで行われているところでございます。

○議長（飯嶋正利） 答弁漏れかな、津波前の。

○4番（戸村ひとみ） ですから、分からないんです。

○議長（飯嶋正利） 分からない。

林晴道議員。

○12番（林 晴道） 今の質疑なんですけれども、構成人数だとか年齢層、東日本大震災の前から飯岡地域に居住している方々の人数とか、被害に遭われた方はどの程度いらっしゃるのかなと、その声はどんなものを吸収されて請願者としてサポートされているのかなとそこが一番気になったんですね。全く分かんないってことでちょっと驚きがございます。

分かるのであれば答弁漏れで、もう一回発言して……

（発言する人あり）

○議長（飯嶋正利） 静粛をお願いします。

暫時休憩。

休憩 午前10時48分

再開 午前10時49分

○議長（飯嶋正利） 再開いたします。

林晴道議員。

○12番（林 晴道） 請願理由として、「10年前に立てた計画を、10年後の実施までに市民に周知することなく、また試験林の検証も行わないままに事業を決行した。」と、これ文章にございますので、その点に関して、先日の一般質問において戸村議員ご自身が、市と千葉大が調査をしていたというふうなことを述べていらっしゃいました。その点に関しても不可解でありましたので、先日の現地視察で検証をいたしました。

僕自身、10年前に試験植樹をさせてもらった9種類の樹木から、今回千葉大学の教授を含む有識者の検討会により、今回は樹木が環境に適さなかった2種類の樹木を入れ替えて苗木の植樹をしたということを聞き、実際この目で見てまいりました。それでは、検証を行っていないという文章には疑義が募りますので、その点詳しくご説明をいただきたい。

また、津波対策として逆効果であるとして「コンクリートの上に土を盛って木を植えるという手法では、土は津波と共に土石流となり、津波対策としては逆効果である」との記載がございますので、東日本大震災後に国が示す津波対策としてレベル1の百年に一度の大津波と、レベル2にある千年に一度の超巨大津波がございますけれども、そのことを踏まえて、県は海岸保全基本計画を変更して旭市域での津波対策を行っております。

その中で、継続事業として残っているこの海岸減災林の整備は、有効的な津波対策と僕自

身は認識しておるのですが、逆効果と言い切るのであれば、具体的にどの地域のこういった事例があるのか、その点十分な説明をいただけたらとそのように思います。

○議長（飯嶋正利） 林晴道議員の再質疑に対し答弁を求めます。

戸村ひとみ議員。

○4番（戸村ひとみ） 10年前に立てた計画でというふうには書かれていると。私が一般質問の中で、市と千葉大学が調査に入っていたというのを言ったということですが、あのときも私言いましたが、調査に来ていたのは去年の暮れか今年の初めです。植樹祭を行うという回覧板を配った、そしてその前ですね、その前市民が、あの辺りの市民が何でここに土を入れているのと言って結構話題になったんですよ。それが4月27日に植樹された場所です。そのときも市民は植樹のことを知りませんでした。植林のことを知りませんでした。試験林も、そこが試験林であるということを誰も知りませんでした。私も知りませんでした。

検証していない根拠、検証していないんだという根拠。これはしていない根拠というのを出すというのは非常に難しいですが、した根拠として私は、した根拠というんですか、していない根拠を、私が調査をしたのは初めて見た、それが何か月か前のことなので、それを根拠としたいと思います。

その前の、私が逆に聞くことはできないでしょうからあれなんですけれども、逆に、ではいつ調査をしたのかを知りたいぐらいです。10年間何もしないで、見られましたか、あの場所。私は旭市に来て8年ですが、そのときには既にもうあの試験林がございました。そして、伸び放題に松なんか伸びていて、中は松くい虫ですよ。鬱蒼として、その中にごみがある。あと何だか分かんないような動物の鳴き声とかも聞こえる……ごめんなさい、いけない。

○議長（飯嶋正利） 戸村議員、質問に対して簡潔にお願いします。質疑に対して簡潔に。

○4番（戸村ひとみ） なので、あれです。調査をしていないというその根拠は、今言いましたように私が旭市に来て約8年ですけれども、その間にあそこが試験林だとも知りませんでしたし、なぜ知らなかったか、それは調査に来ていなかったからです。市のほうも、市民にもそれを伝えていませんでした。市民も誰も知りませんでした。

あと逆効果ということで、先ほど、私、奇跡の一本松の話をいたしました。気仙沼のあの一本松が示しているのは、大津波が来たときには全てが流されるということです。1本奇跡的に残ったのはユースホステルの陰になって、ユースホステルは壊れましたが、松は1本だけ残りました。そのことを奥山さんは逆効果と言われたんだと思います。

答弁漏れございますかね。

○議長（飯嶋正利） 大丈夫です。

林晴道議員。

○12番（林 晴道） 検証して、2本入れ替えたというのを見てきましたね。

それから、国もレベル1、レベル2といろいろ資料を出していますが、粘り強い構造ということで事業展開されているんだなという思いがございます。

最後に伺いたいのが、国が示すこのレベル1、それからレベル2の津波に現状のコンクリート防波堤に加えて、海岸減災林整備というのは粘り強い構造に有効的であるというように言われていますし、僕もそうなんだろうなと思っております。現状のコンクリート堤防だけで、津波対策が十分であるということをお考えの上でのこの請願書であるのかお聞かせいただきたい。

また、景観を損ねる上にサーファーや観光客減少の懸念とございます。当事業の効果は市民の命と財産を守ること、大震災を後世に伝えること、自然とともに生き、みんなで育てることであろうと考えますので、まずは市民の命と財産を守った上で景観や観光対策を行うものと思いますが、そこで伺います。

どれだけ観光客が減少をすると考えての記載であるのか。また、そのことにより地域経済にどの程度影響があると考えてのご記載であるのか、その点を詳しく伺いたいと思っております。

○議長（飯嶋正利） 林晴道議員の再々質疑に対し答弁を求めます。

戸村ひとみ議員。

○4番（戸村ひとみ） 答弁の順番が前後するかも分かりませんが、どの程度の経済にダメージを与えるか。それは、市が今回減災林を植えるに当たって、市のほうが調査して市民に示すべきです。これは、請願者がそのところを調査するべきものではありません。

それから、レベル1、レベル2の津波に効果をもたらすもの。何か勘違いをしていられる。私は、津波から市民の命を守らなくていいなんて言っているわけではないんです。奥山さんだって、そんなこと一言も言っていないですよ。

（「僕もそんなの聞いてないぞ」の声あり）

○4番（戸村ひとみ） いや、だってそう言われたじゃないですか。今のコンクリートで十分かと思っているかということですけども。

（「それに対して回答してください」の声あり）

○4番（戸村ひとみ） はい。コンクリートで十分だとは思っておりません。あの自転車道か

ら1.1メートルしかないコンクリートの堤防では何も守れません。人の命なんか守れません。ただ、私は東北と同じようにこの津波が来たことを後世に伝えて、今、議員もおっしゃいましたけれども、後世に伝えて二度とこんなことで犠牲が出ないことを市が考えなくてはいけないと思っております。

ただ、市は津波から10年たったときにもう追悼イベントもやめました。何か後世に伝える努力をしていますか。減災林を植えることは努力にはならないです。あの減災林では人の命は守れません、堤防だって守れません。逆に安心してしまって、みんなが逃げなくなります。

10年たって、こういうことをやるときには……

○議長（飯嶋正利） 戸村議員、質疑に対して答弁をお願いいたします。

○4番（戸村ひとみ） だって、守れると思っているかって。

○議長（飯嶋正利） 林議員は経済に対するという話がありました。

○4番（戸村ひとみ） 人の命を守れるかと言われましたけれども。

一宮町の例を出します。一宮町は今回、数か月前ですけれども、4月か、市庁舎の屋上にドローンを2基配備して、地震が来たとなったら沖にドローンを飛ばして津波の状況を確認します。そして、市のほうに配信するように、そういうのを予算取って配備しました。ですから、私は10年前に決めたことをそのままやるのではなくて、検証をして、そして市民に周知して、パブリックコメントを取って。パブリックコメントを取ったかといったら13年前に取りましたと言われましたね。今ですよ、今パブリックコメントを取って、もうあの頃から技術は日進月歩、本当に進化しています。

そんな中で一宮町は、一宮町もサーフィンのメッカです。そこは、海に人を寄せるところです。そこは、林を植えるのではなくて、海をどのように経済に活用して、そして市民の命を守れるか、そういうことを考えてドローンを配備したのだと私は思います。

（「質問からずれてるので、答弁結構です」の声あり）

○4番（戸村ひとみ） ですから、コンクリートでは……

（「答弁結構です、議長」の声あり）

○議長（飯嶋正利） 質疑に対し、答弁を……。

○4番（戸村ひとみ） 命は守れません。

以上です。

○議長（飯嶋正利） 林晴道議員の質疑を終わります。

ほかに質疑はありませんか。

(発言する人なし)

○議長（飯嶋正利） 質疑なしと認めます。

請願第4号の質疑を終わります。

会議は途中ですが、ここで11時10分まで休憩いたします。

休憩 午前11時 1分

再開 午前11時10分

○議長（飯嶋正利） 休憩前に引き続き会議を開きます。

これより討論に入ります。

討論の通告がありますので、発言を許可いたします。

宮内保議員、ご登壇願います。

(13番 宮内 保 登壇)

○13番（宮内 保） それでは、私のほうから「海岸減災林整備事業」の中止を求める請願に対して反対の立場で討論をさせていただきます。

常世田正樹議員、林晴道議員、いろいろな意見が出ましたけれども、私はちょっと違う角度で飯岡の歴史というか、浸食の歴史というか、そういったことから討論させていただきます。

飯岡の海岸は何百年も前から海岸の浸食が激しく、それを防ぐため、住民が一体となって立ち向かい、江戸時代の末期から昭和の時代を通して様々な浸食対策工事を行ってまいりました。自然の猛威は、住民が労力と時間を費やして造った護岸を容赦なく破壊し続け、住民の不安は絶えることがありませんでした。

特に昭和30年頃から昭和40年頃は浸食が激しく、平松海岸辺りでは堤防に波が打ち寄せ、時には道路まで波がかぶることがしょっちゅうでありました。また、昭和39年11月から次の年の1月にかけて、異常潮位は海岸の堤防が広範囲にわたり決壊し、正月前に疎開騒ぎになるほどでした。新聞にも報道され、恐怖を思う時期でありました。

この災害に対して、消防団をはじめ、地元の住民は延べ2,625人が当番制で麻袋で土のう作りや警戒等に当たりました。1,350メートルもの護岸を災害復旧工事として短期間に完成させるために、町民が一丸となって取り組んでまいりました。その後も幾多の堤防が倒壊し

たことなどから、それがきっかけとなり、飯岡海岸全体の防御の必要性から高潮対策事業へ着手への機運が高まり、町としても県・国、幾多の陳情を行い、その結果、国・県の高潮対策事業として工事が開始され、その事業の一環として昭和49年より萩園海岸を中心に離岸堤の設置が始まりました。その後、着々と新しい堤防が出来上がり、激しい浸食にも耐えることのできる堤防が出来上がりました。

ここで、私は昭和39年から40年にかけての浸食、ちょっとよく、ちょっと見ていただきたいんですが海の恐ろしさ。課長らもほとんど分かんないと思うんですけども、市長も分かんないと思うんです。

この幅約1メートルの堤防が、波によってこのように裂けてしまうんですよ。私、中学3年でした。それこそ、町民が一体となって、私も土のう詰めをやりました。これは、恐らくいいおか潮騒ホテルの前辺りなんです。そのほかにもこういう、これは三川の浜だと思うんですけども、民家まであと数メートルのところまで浸食が進んだんですよ。こうやって土のうをいっぱい積んで、それを防いだんですよ、私らは。波のすごさは、この堤防の下からえぐって、この堤防を砕いてしまうんです。

これはやはり昔の堤防で土木工事、岩盤まで基礎がいないから下からえぐられてしまったというようなことだそうです。私は、土木のことはよく分かんないんですけども、そのぐらい海の恐ろしさというのは、ぜひ皆さんに理解してもらいたい。もし、この写真、私、友人から預かってきたものですから、見たい方があったら私のところに来てください。その当時の千葉日報に載っているんですけども、ここに先ほども言ったんですけども、正月前に疎開するとか逃げ出すとか、大変でした。砂浜50メートル消える。そのぐらい浸食がすごかった。

そういう飯岡の海の実態、海の恐ろしさ、そういうことから今度は3.11の津波なんですけれども、そして忘れてはならない災害は3.11の東日本大震災です。あの当時の光景が、今でも脳裏に焼きついている人は大勢いると思います。特に津波の被害は甚大で、津波は何度も襲来し、地震の発生から約2時間半後の第3波が最大波でありました。津波により亡くなられた方は、行方不明者を含め16名、浸水した住宅家屋は954世帯でありました。

今までに経験したことのない大きな被害と深い悲しみをもたらしました。それは、皆さんある程度はご存じでしょうけれども、私も親しかった友人、第3波の波にのまれて、亡くなってしまいました。また、先日の5月だったでしょうか、減災林の植栽が行われた近くの親しかった夫婦はいまだに行方不明です。14年を経過した今でも残念でなりません。

あの東日本大震災のほかにも、千葉県内では幾度もの津波が発生しており、特に旧飯岡町で被害が大きかったのが元禄津波で、その元禄津波は1703年に発生したもので、船や家が流され、70人余りの方が亡くなりました。1600年代だけでも3度の津波があったにもかかわらず、当時の住民は海からの恵みで生活を維持しながら自然の恐ろしさを実感していたものと思います。防災は過去から学ぶことが大切であり、これまでの海岸浸食に対しては、地域を愛し、守ろうとした精神や行動は受け継いでいかなければなりません。

東日本大震災の記憶が風化しないよう、今後も子どもたちに伝え続けることが必要ではないかと思います。防災も減災も備えることであり、それにはこれまでの経験を生かしつつ、自然と共生していくこと、災害による被害を減少させることが必要と思います。穏やかなきれいな海も一たび海が荒れば修羅場となります。海が渦を巻き、うなりを上げ、押し寄せる激しい波はこの世のものとは思えないほど、自然の猛威はすさまじいものがあります。今の減災林と防潮堤は市民の命と財産を守るためのものです。

以上のことから、請願第4号に反対いたします。

以上です。

○議長（飯嶋正利） 続いて、松木源太郎議員、ご登壇願います。

（20番 松木源太郎 登壇）

○20番（松木源太郎） 私は、請願第4号の趣旨に賛成の立場から討論させていただきます。

私がなぜこの請願に賛成かという、今回計画されている事業が本当に旭市の飯岡地域を震災から、また津波から守るものになるかどうかということを実際に考えていただきたい。

私は、ここに4種類のちょっと資料を持ってまいりました。

まず、最初の1と2が、これ何の資料かということ2022年の5月、千葉県が飯岡地域の離岸堤を移すということで、飯岡地域出身の議員方を集めて、説明会がやられたわけです。ちょうどそのときに今回請願の紹介になっている戸村ひとみ議員から、何でこんなことがあるんでしょうかと質問を受けまして、共産党の県議団に調べてもらったら、これだけの資料が来ました。

これは何を示すかということ、実はその年の9月の工事がやられて、そして九十九里方面の砂が移動している。つまり、離岸堤でもって砂がいろいろ移動しているの、それを調整するために、県が飯岡の海岸の5基を撤去して、ほかへ持っていくということで説明があったんですね。

どうということかということ、大震災の後に千葉県は何回もこの九十九里地域の津波対策の会

議を開いています。この名簿を見ますと、当時の市長も出席しています。市長代理の総務の方も出席しておりまして、そういう中から22年に離岸堤を移さなければいけないというふうになった。これは、やはり県が九十九里全体を見計らって、それでもってどういうふうに離岸堤を置いたらいいかと。ところが、千葉県はこの海岸地域の海岸が狭くなっていることには、数十年にわたって無視してきたわけです。

実は私が平成17年まで議員をやっていたときに、鹿島灘がなぜあのようにいい海岸になっているかということ进行调查してきたことがあります。それは、鹿島灘のところでは突堤を造って、浜がならないように造って、そういうのを何キロメートルかに造ってやったものだから、海岸が減らなかったわけ。

私たちの党の議員も含めて、九十九里もそういう施設にしないとどんどん海岸が減ってしまうということを実は当時議論したのを覚えております。そういうことを含めて、今旧旭市の井戸野浜とかそういうところに突堤ができていますね。あの方式を、もう茨城県では数十年前からやって、鹿島灘が浸食しないようにしてきたわけです。そういう経験から、千葉県がそれを倣って、始めているわけです。

ところが、このときは実はあまりにも砂がここに着き過ぎているから、それを移動させようということでもって、この会議がやられたらしいんです。3回やられて、2回は当時の旭市の市長が出ていますし、1回は代理で総務課長が出ています。それを、そういう資料を全部取り寄せて、これからの旭市のためにはどうしたらいいかということを考えてくれということでもって、これだけの資料を頂きました。これは、やっぱりとても大事なことで、今回請願の出された方が心配しているこの問題というのをつながるとして、これを一度読み直しました。

二つ目が、問題なのは――結局このところに図面がありますけれども、この飯岡の漁港のところの離岸堤を外して、砂を移動してしまったんですね。そういうことをやっていると、大変これ間違っていると私思います。だから、そういうことをまず今回やっていることは、大変今回のこの事業に関わっていると思います。2番目がちょっと外れましたけれども。

3番目に私が示したいのは、今回3月15日号の広報あさひでもってこういうのが出ましたですね、ご存じだと思うんですけども「未来を守る海岸減災林を整備します」これが実は大変私はびっくりしたんですけども、この前の10年前のというのは、震災が起こった年から、2011年の震災の1年後に発行された市の書類があります。旭市復興計画ですね。これを

見てみますと、どういうことがやられているかという、この中にこの3月のときの記事ではこうなっております。「海岸減災林の整備は、平成24年1月に策定した「旭市復興計画」の重点プロジェクトです。」と書いてあるんですね。

それを私は起こして、見てみました。重点プロジェクトというから、もう旭市の大変重要な、例えば現在、今年決まった戦略ですね、旭市の戦略、今回その前の戦略にもこれが入っていると思っただけです。そこで何をしているかという、海岸減災林をやって、それで10年間経過して、それで育成状態を踏まえて、5年をかけて750メートルの減災林をつくる。

それはどういうものをつくるかという、ここに載っています。要するに飯岡海岸付近は堤防の海側に土を盛って、そこに減災林をつくる。堤防、いわゆる自転車道路がありますね、ずっと堤防の代わりになる。その海側に土を盛って、そこに減災林をつくる。それから、仁玉海岸とか、つまりかんぼの宿の周辺地域は防波堤の外側に海岸減災林をつくる。こういう区別をしているんですね。なぜなのか。これは敷地がないからだと思うんですよ。しかし、この前段のパターンというのは、津波が来たときにはこのまま一気に流れます。

先ほど、何万本も植樹したというのがありますけれども、私の妻の実家というのは井戸野浜です。あの地域というのは昔から繰り返し繰り返し松が植樹されてきました、戦後ずっと。それで大震災のときには川がありますけれども、そこも逆流しないで、飯岡よりも波が静かだったんでしょうけれども、すぐ海岸の脇でありながら何でもなかった。その後、流された木はまた移植するために一生懸命やっています。

ところが、この海岸の堤防の外側に土を盛ってつくった松林が、本当に人を守るための土手になるかどうかということが問題だと思うんです。それを意識しないで、そういうことを調べもしないで書いたのが、この2012年、24年1月のこの「旭市復興計画 心をひとつに～共に進もう 復興あさひ～」とこの文章です。これの4年後に木を植えたわけですよ。それが10年たったと言っているんでしょう。それでもって、それが茂っているからやる。

もう一つ、やり方として、本来であればそういう森林をつくるのであれば、業者に頼んできちっとやるべきなのに、何で今回皆さん方に、300人の方に集まってもらって植えるんですか。いろんな木、松とかそれだけではない、いろんな木を植えるというんでしょう。そういう素人が植えたのが10年たったら、ああいうふうになると。本当になりますか。それから、もう一つは景観のこの話が出ると、途中途中、穴を空けるから、それが本当に波を打ち消すものになりますか。

つまり、今の市当局の物の考え方、事業の進め方、これは大変に間違っていると私は思ったんです。そのことでもって、今回出てきているこの請願というのは、そういうことに対しての反省を求めるといふ形の請願になっているのではないかと。私は、飯岡のことを詳しく知りません。

しかし、昔からご存じのように飯岡石というのがあって、それは地中から出てくるんだけど、自然でもって薄っぺたい石が積載されている。それでもう何百メートルも向こうに江戸時代には住所があったということが言われている。私も、子どもの頃からこの飯岡を知っていますから、昔は学生時代にといふか子どもの頃に来ると、すぐ下から灯台のところへ上がっていく道がありました。私、こちらに就職していったらば、全然もう変わってしまっていた。こういう大変難しい地帯です。

しかし、私に言わせれば、本当に今市がやろうとしているこの事業が、この飯岡の地先を守るための事業になるのだろうかという疑問を持ったので、この請願の趣旨に賛成したわけです。やはりこの機会にもっとやり方を市当局は検討していただきたい。そして、実効のあるものを市政でも上でもって掲げていただきたい。ですから、令和7年から令和11年にかけての今回の戦略、市の戦略、あの中にこのことは全く入っていないでしょう。私は、全部見たつもりなんですけれども。

ということは、市の主立った事業ではないことを、住民を集めてそういうことをやろう。この市政のやり方といふのはちょっと検討していただかなければならない。そういう趣旨の私は請願だと思っ、今回賛成の討論をいたしました。

以上です。

○議長（飯嶋正利） 続いて、戸村ひとみ議員、ご登壇願います。

（4番 戸村ひとみ 登壇）

○4番（戸村ひとみ） 今回の海岸減災林植樹に対する請願、中止に対する請願、その請願に対して、紹介議員として、まずこの請願を出された奥山さん、奥山隆之さんという市民の方からの市長に対する意見書、これをちょうど植樹の、植林のその当日に直接市長に渡されたその意見書、これがありますので、こちらを読ませさせていただきます。

海岸減災林植樹に対する意見書。2025年4月27日、氏名、奥山隆之。

私は、本事業に利害関係のある土地・建物の権利者です。この事業に反対する立場から意見書を提出します。以下、反対の理由を述べます。

1、美観を損ねる点。

本事業は、自然環境や景観に配慮した整備であるとうたわれているが、平成27年に試験樹林された平松地先の現状を見ると全く管理をされているとは言えず、雑草やシノのようなものが生え、とても美しいとは言えない状態である。私は、民宿を経営しているため、周辺のビーチクリーンなども定期的に行っているが、上記のエリアにもごみや不法投棄が頻繁にされており、市はまさに植えたら植えっ放し状態で、むしろ美観を損ねているとしか思えない。

2、本事業が周辺住民にきちんと理解をされているのか疑問である点。

私は、民宿を経営するために現住所の土地・建物を購入したが、土地売買の際の重要事項説明において説明されておらず、また今回の植樹についても植樹祭参加申込書の配布があったことで具体的な計画を初めて知ったという状況であった。また、この参加申込書の配布をきっかけに、近隣住民とも話題となっているが、皆、口をそろえて、知らなかった、松ごときで津波が防げるとは思えない、テトラポットや防波堤で海が全く見えなくなった、その上松まで植えられたら散歩していても何も見えなくなると反対する声が大変多い。近隣住民は本当に防災を望んでいるのか、植樹を本当に望んでいるのか、甚だ疑問である。

3、危険動物の住処となる可能性。

近隣住民と本件について話をしていると。夜になると動物の鳴き声が聞こえるという声もあり、掃除や草刈りをしたくても、蛇や害虫、害獣の住処となっている危険性から、足を踏み入れるのが怖いという話があった。

4、サーファーや観光客減少の懸念。

私は上記のとおり民宿を経営しており、ここ1年間においては少なくとも120組以上のゲストを迎えており、当民泊では食事の提供がないことから、近隣のお店や食事どころ、観光地を案内し、近隣の商売の売上げにも貢献している自負がある。また、当民泊ではBCMというサーフィン情報サイトにライブカメラの設置スペースを提供し始め、ここ1年間飯岡エリアでのサーファーが激増したと実感している。

民泊情報は、エアビーアンドビーにて掲載されていて、口コミも多数いただいているが、その口コミの多くは前面の防波堤場や部屋からのオーシャンビューに関するものが多く、当民泊事業において景観を損なうということは大きな機会損失となり、ひいては近隣の商売についても少なからず影響があると考えます。

以上のことから、私は、海岸減災林植樹について強く反対をします。

私は、20年以上サーフィンのために、茨城、千葉、神奈川の様々な場所へサーフトリップをしてきましたが、飯岡は本当にすばらしいまちです。様々な場所を見てきた上で、私はこ

の飯岡をついの住みかを決め、一大決心をして民泊を開業しました。周辺住民の方々は皆、本当に温かい人たちで、よそ者である私を温かく受け入れてくれ、そして親しく付き合ってくれています。そんな皆と毎日のように話題となるのが今回の防災林の植樹についてで、反対をしている人が圧倒的に多いと感じています。

私を含め近所の人たちは毎日、朝から夕方まで海を眺めながら散歩し、海を感じて、海とともに暮らしています。確かに海には塩害や高波、津波など、大変厳しい面もあります。それでも、皆が海の近くに住んでいるのは、海に癒やされ、海に触れることにこの上ない喜びを感じているからです。このようなすばらしい環境がある場所は全国にもそうたくさんはありません。もちろん防災という観点を軽視していいとは思っていませんが、そのために住民の日常の憩いである海を、景色をなくしてしまってよいのでしょうか。震災から14年、本当に住民は莫大な予算をかけた植樹を、そしてそのために海のある生活を潰すことを望んでいるのでしょうか。

さらに、以下は私個人の考えとなりますが、飯岡地区には高齢者が多く、残念ながら新しく移住してくる人はほとんどいません。しかし、私がそうであったように海に魅力を感じる人たち、特にサーファーは全国にたくさんいます。千葉県一宮町のようにサーフィンをきっかけに若者に魅力を感じてもらえるまちづくりができれば、旭市はもっと元気になれるはずです。海は怖いだけの存在ではなく、観光資源にもなり得ると思うのです。

例えば海岸に駐車場を整備し、料金を徴収することができれば、より多くのサーファーを集められるかもしれないし、それを財源にもっと別の防災対策を考えることができるかもしれません。どうか、今の飯岡住民の声を聞いてください。請願提出者の切実なる声です。

私の賛成討論を始めます。

旭市は、東日本大震災の津波から10年たった2021年を最後に、追悼イベントをやらないことにしました。今は、津波直後に立ち上がった市民有志NPOが毎年語り部として、本来市がやらなくてはならないまちの歴史を後世に伝えるという役割を担ってくれています。

その津波から10年、読売新聞には、忘れられた被災地旭というタイトルで、当時の飯岡中学生のインタビュー記事が載っていました。このまちはだんだん衰えていくようだ。彼女の言葉です。この言葉に希望を感じる人がいるでしょうか。私は、中学生でも自分が住むこのまちを物すごく不安な気持ちで見ているんだなと胸が潰れそうでした。

実際には、飯岡の人たちは力を合わせて、何とか復興への足がかりを見つけようと商店を再興させたり、飲食店を開いたり、宿泊施設を造ったり、必死で頑張っている、それでも

子どもの目には空き地だらけの活気のないまちがどんどん寂れていくように見えていたのでしょう。そこには、夢も希望も見いだせていなかったのでしょう。

同じく震災から10年の2021年の読売新聞の記事。空前の復興事業の舞台となった岩手県陸前高田市、新しい市街地の土台はほぼ出来上がったが肝腎の被災者は戻ってこず、家や店が点在している状態だ。見直されることなく突き進んだかさ上げ計画の方針を決めたのは、市幹部や都市計画コンサルタントらごく一部の人だった。強靱化されたまちは、今6割が空き地だ。

あれから、4年がたちました。飯岡ビーチラインには、マイホームを建てたり、別荘を計画したり、商売を始めたり、海が見えて海を感じて生きることができる地面を求める人が少しずつですが増えてきました。そこに、この4月減災林計画がいきなり着工されたのです。

東日本大震災の津波の直後の復興計画に、市は飯岡減災林計画を入れました。13年前です。その後、飯岡海岸には堤防が造られ、そして、この4月、750メートルにわたる海岸減災林整備計画に着手しました。13年前に決めたことを市民には何の前触れもなく、土盛り工事を始め、飯岡減災林植樹祭のお知らせを回覧板で回しました。市長は、対話という言葉をよく口にされます。一体誰と対話をしているのですか。一体誰と何を語ろうとしているのですか。

今年度から5か年計画の総合戦略では、以下の記述があります。旭市が目指す将来都市像、議員の皆さんは読んでいらっしゃると思います。「これからは、人口減少と環境問題への対応といった厳しい状況が続くなか、「ず〜っと大好きなまち旭」という未来を、市の魅力（宝）を活かしながら、市民みんなの力で創り上げていくことがとても重要になってきます。また、市民一人ひとりが、市の魅力を認識し、地域課題の解決を自分ごととして捉え、まちづくりに積極的に参加することで、市への愛着心と誇り「シビックプライド」を育むことができます。」注、シビックプライド、「地域への誇りと愛着」を表す言葉で、自分たちの住むまちをよりよく、より誇れるまちにしていこうという市民の思いを指している。

この総合戦略は誰がつくったのですか。チーム旭のコンサルですか。まちづくりのプロの業者ですか。東北しかり、市幹部や都市計画コンサルタントら、ごく一部の人ですか。これが本当に市長の気持ち、そして市民への語りかけだとしたら、市長は時代錯誤の専制君主か、領民から年貢を取り立てるだけの領主もどきだと言わざるを得ません。もう一度読みます。

「市民一人ひとりが、市の魅力を認識し、地域課題の解決を自分ごととして捉え、まちづくりに積極的に参加することで、市への愛着心と誇り「シビックプライド」を育むことができ

ます。」これが総合戦略の将来の旭像です。

市民は、少なくとも今回請願を出した市民、そして署名運動に参加している市民は、市の魅力を十分認識し、津波からの復興という地域課題の解決を自分事として捉え、まちづくりに積極的に参加しています。その地域を選び、投資をして、汗水垂らして働き、税金を納め、地域への愛着心と誇り、シビックプライドを持って暮らしているのです。

市長は、こうした市民の姿が見えないのです。いや、見ようとしていないのです。美辞麗句を並べ立て、はやりの横文字を使い、下降の一途をたどるまちのまちづくりを、市民が自分のこととして考えて、自分事として考えてなお一層の努力をするように、そしてそのことにプライドを持つようにとのお達しですか。プライド、誇りは、人から言われて持つものではありません。自主的、主体的なものです。市長、市長こそプライドを持ってください。旭市の市長としての誇りを持ってください。市民が誇りに思う市を目指してください。市民に責任転嫁をするのではなく、市民と本当に心からまちづくりのことを語り合ってください。

少なくとも市長が今から10年後のまちの姿を思い描いたら、本当に復興した姿を思い描くとしたら、そこに減災林なんかないはずです。市は、飯岡から中学校もなくしてしまう計画を立てています。このままだと飯岡ビーチラインも空き地だらけのまま、飯岡地域に住む人はいなくなってしまう。4年前にインタビューに答えた中学生の不安は現実のものとなっていくでしょう。

宮内議員は、反対討論で300年前から飯岡の先人たちが海の脅威と戦って、飯岡を守ってきたと語られました。私は、その300年前からの歴史は、申し訳ございません、本当に知りませんが、現在、飯岡が残っているということはそういうことです。飯岡の人たちが脈々と命をつないできたんですよ。

(発言する人あり)

○議長（飯嶋正利） 静粛にお願いします。

○4番（戸村ひとみ） 私は、今現在飯岡に住んでおります。

(発言する人あり)

○4番（戸村ひとみ） 過去の歴史を、現在の人の命を守るためにどういうふうにかかすかを考えています。過去の歴史にとらわれて、今、先ほども言いましたが、こんなに技術が日進月歩している中で、林を植えることしか人の命を守れないと考えている。そのことに対して反対しているんですよ。

そして、13年前に決めたことを、13年後に……

(発言する人あり)

○議長(飯嶋正利) 静粛をお願いします。

○4番(戸村ひとみ) その今住んでいる人の意見も聞かず、パブリックコメントも取らず、そして……

(「意見は聞いているよ」の声あり)

○4番(戸村ひとみ) 聞いていません。

(「聞いているよ」の声あり)

○4番(戸村ひとみ) 一般質問でのご答弁では、13年前にパブリックコメントを取ったということでした。

今、飯岡が残っているのは、先人が本当に苦難に耐え、脈々と命をつないできたからです。ただ、東日本大震災のときに命は守れませんでした。16名もの犠牲を出してしまいました。これは防災教育、子どもたちに対する、そして市民に対する防災教育が徹底していなかった、このことだと私は思います。

それは、東北の方々も皆反省しております。東北では、私は2回も視察に参りましたが、大川小学校、市が立てたマニュアルどおりに子どもたちを川の橋の上に避難させた先生と子どもたち、みんな津波に流されています。ただ、何百年も前から津波でんでんこ、自分で考えて、自分で逃げて、自分の命は自分で守るんだよというのを語り継いでいた。それを守った子どもは命を守っています。自分で命を守っています。私は、それが言いたいのです。物で人の命は守れません。それが、東日本大震災で実証されました。

奇跡の一本松も、1本だけ残ったから一本松なんです。あとの何万本も流されました。そして、建物を壊しました。そういった震災の歴史、そういうことを学んで、本当に命を守る、市民の命を守る、それはどういうふうにしたら守れるか、そのことをぜひとも市長には考えていただきたいのです。

政治家は、震災の後、高い堤防を造る、さらに高い堤防を造る、かさ上げをする、そういう方向に進みました。でも、その政治家は責任は取りません。さらに大きな津波が来たときには、そんな建物、建造物、林なんかは何の意味も持ちません。ただ、そのときに政治家は想定外だったと言って逃げるんです。今までがそうです。皆さん、思い出してください。みんな政治家が発している言葉、あれはどうしようもなかった、想定外だったと言うんですよ。

そんな政治家に、市民の、国民の命は守れません。とにかく命を守ることが大事です。建物や財産、命には代えられません。命が一番大事です。そのことを子どもたちに伝えていか

なくてはならないんです。ただ、それも旭市は震災から10年たって、伝えていくこともやめました。

私は、政治の役割は子どもたちに公平公正な社会、そして明るい未来を約束することだと考えます。しかし、今政治はその役割を果たしていると言えるでしょうか。信用、信頼に値する市政でしょうか。この信がないために、誰がやっても同じ、何度やっても同じと市民は政治を諦めているのです。こんな諦めの社会で、健全な人格の次世代が育つとは私には到底思えません。旭市を自信を持って継いでいくという子どもたちが育っていくとは到底思えません。

議員の皆さん、いま一度、胸に手を当てて一緒に考えてみてください。私たち、旭市議会議員は旭市民に信用、信頼されていますか。旭市民から選ばれた私たち旭市議会議員は、旭市に誇りを持っていますか。このまちで自信を持って強く生きていく子どもたちを育てていこうと心から思っていますか。選んでくれた市民に信頼されることを願っていますか。何より旭市議会議員であることに誇りを持っていますか。旭市の子どもたちの顔を思い浮かべながら、いま一度考えてください。心からのお願いです。

○議長（飯嶋正利） 以上で請願第4号の討論を終わります。

暫時休憩。

休憩 午前11時58分

再開 午後 零時30分

○議長（飯嶋正利） 休憩前に引き続き会議を開きます。

先ほど、戸村議員の討論の中で不穏当と思われる発言がございましたので、議長において後刻記録を調査して、措置することにします。

これより請願第4号について採決します。

請願第4号、旭市飯岡地区「海岸減災林整備事業」の中止を求める請願について採択と決するに賛成または反対のボタンを押してください。

（表決ボタンにより表決）

○議長（飯嶋正利） 賛成少数。

よって、請願第4号は不採択と決しました。

本日、発議案が提出されました。

提出された発議案は、発議第1号、義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書の提出について、発議第2号、国における2026年度教育予算拡充に関する意見書の提出についての2発議案であります。

配付漏れはありませんか。

(「なし」の声あり)

○議長(飯嶋正利) 配付漏れないものと認めます。

ただいま、発議案に伴う追加日程について、議会運営委員会を開催していただき、その結果につきまして、委員長の報告を求めます。

議会運営委員長、林晴道議員、ご登壇願います。

(議会運営委員長 林 晴道 登壇)

○議会運営委員長(林 晴道) 皆さん、ご機嫌よくお過ごしですか。

ただいま、議会運営委員会を開きまして、発議案の提出に伴う追加日程について協議をいたしましたので、その内容について、ご報告申し上げます。

本日、提出されました発議案は、発議第1号、義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書の提出について、発議第2号、国における2026年度教育予算拡充に関する意見書の提出について、この2発議案であります。

それでは、議事日程の協議結果について申し上げます。

配付してあります令和7年旭市議会第2回定例会の議事日程その2、本日6月25日水曜日、この後、追加日程第1、発議案上程、追加日程第2、提案理由の説明、追加日程第3、質疑、討論、採決。

以上で、追加日程の協議についての報告を終わります。よろしく願いいたします。

○議長(飯嶋正利) 議会運営委員長の報告は終わりました。

おはかりいたします。発議第1号と発議第2号の2発議案を本日の日程に追加し、直ちに議題とすることにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長(飯嶋正利) ご異議なしと認めます。

よって、本発議案を本日の日程に追加し、直ちに議題とすることに決しました。

◎追加日程第1 発議案上程

○議長（飯嶋正利） 追加日程第1、発議案上程。

発議第1号、発議第2号の2発議案を一括上程いたします。

◎追加日程第2 提案理由の説明

○議長（飯嶋正利） 追加日程第2、提案理由の説明。

提案理由の説明を求めます。

発議第1号、発議第2号について、文教福祉常任委員長、島田恒議員、ご登壇願います。

（文教福祉常任委員長 島田 恒 登壇）

○文教福祉常任委員長（島田 恒） それでは、発議第1号と発議第2号について、提案理由を申し上げます。

初めに、発議第1号、義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書の提出についての提案理由を申し上げます。

本発議案については、意見書を朗読して、提案理由の説明に代えさせていただきます。

大切な提案理由でございますので、しばらくご辛抱願いたいと思います。

義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書。

義務教育費国庫負担制度は、憲法上の要請として、教育の機会均等とその水準の維持向上を目指して、子どもたちの経済的、地理的な条件や居住地のいかんにかかわらず無償で義務教育を受ける機会を保障し、かつ、一定水準の教育を確保するという国の責務を果たすものである。

政府の主導する三位一体の改革の中で、国家財政の悪化から同制度を見直し、その負担を地方に転嫁する意図のもとに、義務教育費国庫負担金の減額や制度そのものの廃止も検討された経緯がある。

地方財政においても厳しさが増している今、同制度の見直しは、義務教育の円滑な推進に大きな影響を及ぼすことが憂慮される。また、同制度が廃止された場合、義務教育の水準に格差が生まれることは必至である。

よって、国においては、21世紀の子どもたちの教育に責任を持つとともに、教育水準の維

持向上と地方財政の安定を図るため、義務教育費国庫負担制度を堅持するよう強く求める。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

意見書の提出先でございますが、内閣総理大臣、財務大臣、文部科学大臣、総務大臣宛てでございます。

続いて、発議第2号、国における2026年度教育予算拡充に関する意見書の提出についての提案理由を申し上げます。

本発議案についても、意見書を朗読して、提案理由の説明に代えさせていただきます。

国における2026年度教育予算拡充に関する意見書。

教育は、日本の未来を担う子どもたちを心豊かに教え、育てるという重要な使命を負っている。しかしながら、社会の変化とともに子どもたち一人ひとりを取りまく環境も変化し、教育諸課題や子どもの安全確保等の課題が山積している。また、各地で地震や豪雨、台風などの大規模災害が立て続けに発生し、災害からの復興は未だ厳しい状況の中にあると言わざるを得ない。

子どもたちの健全育成を目指し、充実した教育を実現させるためには、教育環境の整備を一層進める必要があり、国からの財政的な支援等の協力が不可欠である。

国においては、教育が未来への先行投資であり、日本の未来を担う子どもたちに十分な教育を保障することが、国民の共通した使命であることを再認識され、国財政が非常に厳しい状況の中ではあるが、以下の項目を中心に、2026年度予算の拡充をされるよう強く要望する。

1. 災害からの教育復興にかかわる予算の拡充を十分に図ること
2. 子どもたち一人ひとりにきめ細やかな指導をするため、公立義務教育諸学校の教職員定数を改善する計画を早期に策定・実現すること
3. 保護者の教育費負担を軽減するために義務教育教科書無償制度を堅持すること
4. 現在の経済状況を鑑み、就学援助や奨学金事業にかかわる予算をさらに拡充すること
5. 安心して学校生活を送れるよう、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー一等相談体制を充実させること
6. 多様な学びの場の充実を図り、誰もが学ぶことができる機会を保障するため、必要な予算措置を講じること
7. 安全・安心で個別最適な学びを実現する施設環境の整備に向け、バリアフリー化や、洋式・多目的トイレ、空調設備設置等の公立学校施設整備費を充実すること
8. GIGAスクール構想を着実に推進し、学校現場における様々な課題に対応できる環

境を整えること

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

意見書の提出先でございますが、内閣総理大臣、財務大臣、文部科学大臣、総務大臣宛てでございます。

皆様のご賛同をお願い申し上げます、提案理由といたします。

○議長（飯嶋正利） 提案理由の説明は終わりました。

◎追加日程第3 質疑、討論、採決

○議長（飯嶋正利） 追加日程第3、質疑、討論、採決。

これより質疑、討論、採決を行います。

発議第1号、発議第2号の2発議案について、一括して質疑に入ります。質疑はありますか。

（「なし」の声あり）

○議長（飯嶋正利） 質疑なしと認めます。

これより一括して討論に入ります。討論はありませんか。

（発言する人なし）

○議長（飯嶋正利） 討論なしと認めます。

これより発議第1号、発議第2号の2発議案について採決いたします。

採決は電子表決システムにより行います。

発議第1号、義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書の提出について、原案のとおり決するに賛成または反対のボタンを押してください。

（表決ボタンにより表決）

○議長（飯嶋正利） 押し忘れなしと認め、確定いたします。

全員賛成。

よって、発議第1号は原案のとおり可決されました。

発議第2号、国における2026年度教育予算拡充に関する意見書の提出について、原案のとおり決するに賛成または反対のボタンを押してください。

（表決ボタンにより表決）

○議長（飯嶋正利） 押し忘れなしと認め、確定いたします。

全員賛成。

よって、発議第2号は原案のとおり可決されました。

◎日程第5 事務報告

○議長（飯嶋正利） 日程第5、事務報告。

事務報告を求めます。

総務課長、登壇してください。

（総務課長 向後 稔 登壇）

○総務課長（向後 稔） それでは、篤志寄附を受納しておりますので、ご報告いたします。

報告書の2ページをご覧ください。

一つ、大阪・関西万博チケット（1日券）250枚を三井住友海上火災保険株式会社様より、4月21日受納いたしました。

一つ、苗木3,000本及び植樹資材一式を公益財団法人鎮守の森のプロジェクト様より、4月25日受納いたしました。

一つ、豚肉258.0キログラムを旭市養豚推進協議会様より、5月16日受納いたしました。

一つ、金50万を千村文彦様より、5月29日受納いたしました。

一つ、金100万円を宇井とみ様より、6月2日受納いたしました。

一つ、金10万円を株式会社石川商会様より、6月3日受納いたしました。

一つ、金10万円を株式会社カナヤ食品様より、6月6日受納いたしました。

一つ、金15万円を郡建設株式会社様より、6月9日受納いたしました。

一つ、豚肉317.8キログラムを有限会社P i g F e r t i l i z e松ヶ谷様より、6月18日受納いたしました。

以上で、事務報告を終わります。

○議長（飯嶋正利） 事務報告は終わりました。

◎日程第6 閉 会

○議長（飯嶋正利） 以上をもちまして、本定例会に提出されました議案等の審議は終了いたしました。

これにて令和7年旭市議会第2回定例会を閉会いたします。

長期間にわたり大変ご苦労さまでした。

閉会 午後 零時45分

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

旭市議会 議長 飯 嶋 正 利

副議長 片 桐 文 夫

議 員 向 後 悦 世

議 員 景 山 岩三郎